

令和4年度 東京都立東村山高等学校 学校経営計画

1 目指す学校

学び直ししようとする者を誰一人取り残さないきめ細かく、丁寧な指導による教育の推進
教育目標「愛と創造」とともに、スローガン「他者(ひと)のために、一步先の自分へ」に則り、社会の変化に主体的に対応でき、社会貢献できる人物の育成

(1) スクールミッション

「人類の発展と平和に尽くす青年の育成を目指し、次代の良き人材として、伝統と歴史を正しく認識し、新時代の開拓者、個性ある文化の創造者として活躍でき、自己実現の努力を継続する資質を培う。」を学校の使命とし、「他者(ひと)のために、一步先の自分へ」のスローガンの下、社会に有為な人材を育成します。

(2) スクール・ポリシー

①グラデュエーション・ポリシー

ア 中学時代の「つまずき」を克服し、基礎学力を身に付け、高校の学習内容を習得し、進路活動に必要な知識を育成する。

イ 学習の基本である「読解力」を高め、語句の基本的な意味や書き手の意図を読み解き、課題に対し解決する能力を高める。

ウ コミュニケーション能力を身に付けることで、人の話を聞く力、自己の意見を伝える力を育て、自他の考えを尊重できる人材を育成する。

エ 「自ら学ぶ力」を伸ばさせ、「自分の課題を発見し、課題解決ができる力を育てる。また、団体生活を行う上での規律やルール、適正な行動が取れる人材を育てる。

オ 将来の進路実現に向け、職業について学び、必要な知識を身に付けるために、キャリア教育を充実させ、近い将来を見据えたキャリア設計や社会貢献について考え進路希望を実健させる。

②カリキュラム・ポリシー

基礎学力の定着を図り、きめ細かな指導の徹底により、進路実現を達成し、変化する社会に積極的に対応する能力を育て、進学応援型エンカレッジスクールの実現する。また、他者を助けることのできる資質を育て、他者のため社会のために役立つことで、自分を成長させ、一步先の世界に進める人材を育成する。

ア 生徒一人一人の習熟度に応じた指導や少人数指導を展開する。

イ 全ての生徒が基礎基本を身に付けるよう30分授業等実施する。

ウ 理系・文系の選択を行い、多様な進路に対応する。

エ 情報化社会に対応できる人材育成を目指す。

オ 国際交流や日本の伝統文化を学び、国際社会の一員としての意義を学ぶ。

カ 体験学習をとおして、自己の資質や能力を広げる。

③アドミッション・ポリシー

ア 時間を守り、挨拶のできる生徒

イ こつこつと努力のできる生徒

ウ 卒業を目指して毎日通学し、学習規律を守り、学ぶ意欲をもっている生徒

エ 部活動や生徒会活動、学級活動、学校行事及び校外の活動に積極的に参加し感動体験を味わいたい生徒

オ 進路に対して目標をもち、自分の将来設計が描けるような選択の力を身に付けたい生徒

上記の5つに加え社会貢献・地域貢献や進学意欲、高い志をもっている生徒を育成するために、主体的に学び、体験活動を充実させる。

2 中期的目標と方策

近隣地域からの期待に応え、「他者(ひと)のために、一步先の自分へ」をスローガンの下、幼・小・中・高・大の学校や地域との連携を深め、相互の教育力を活用し合い、将来、社会の変化に主体的に対応でき、社会貢献できる生徒を育成する。

(1) 進学応援型エンカレッジスクールとしての指導體制の確立と教育システムの構築。

- ①「基礎学力・つまづき克服」、「読解力」、「コミュニケーション能力」、「自ら学ぶ力」、「キャリア設計・社会貢献意識」の5つの力の伸長。
- ②特別進学クラスの特性の伸長と一般クラスの内容充実。
- ③授業力向上や個に応じた教育支援等の課題解決のための校内研修の充実及び人材育成。
- ④外部人材を活用した基礎学力の向上。
- (2) 3年間を見通したキャリア教育の充実。
 - ①進路に対する明確な目的意識をもたせるため、第2・3学年に特別進学クラスを1クラスを編制。
 - ②高大連携・高大接続を目指した進路指導の充実。
 - ③多様性を尊重し、希望する進路を実現するための進路指導の一層の充実。
- (3) 主体性、協調性、責任ある態度を身に付けさせる教育の推進。
 - ①学校生活12のルールを確実に身に付けさせ、地域との連携を深めた教育活動とともに奉仕活動等、社会貢献活動の充実。
 - ②多彩な学校行事の推進と対外活動への支援。
 - ③ホームルーム、生徒会活動、体育祭、文化祭を通して、役割と責任ある集団づくりの推進。
 - ④自転車乗車マナー向上【自転車通学安全モデル校】・交通ルール遵守を通じて事故ゼロを目指す。
- (4) 心と体の健康づくりの推進
 - ①部・同好会の活性化及び体力向上と帰属意識の高揚を図る。
 - ②継続的な体力向上に向けての取り組みの遂行。
 - ③「教育相談の充実」を目指し、スクールカウンセラー、ユースソーシャルワーカー、精神科の学校医との連携を図り、中途退学防止を図る。
 - ④特別な支援を必要とする生徒へ配慮した基礎的環境整備の充実。
- (5) 組織的な学校経営と経営企画室の学校経営参画の促進
 - ①全教職員の協働体制の構築及び企画・立案を積極的に行い、所属職員の意識向上を図る。
 - ②企画調整会議を軸とした学校経営・全教職員の協働体制の構築。
 - ③学校運営連絡協議会による学校関係者評価に基づいた、学校経営の改善。
 - ④予算編成と施設・設備の整備の充実。
 - ⑤「働き方改革」を推進し、育児中の職員のキャリア形成の促進と介護・仕事の両立支援を図る。
 - ⑥本校の特色をPRするための広報活動の充実。

3 本年度の取組目標と方策

- 重点事項**
- 1 組織的な取り組みによる基礎学力の向上
 - 2 多様性を尊重した進路希望実現
 - 3 応募者数の確保

(1) 教育課程・学習指導

- ①一人1台端末の活用
 - ア オンライン学習を活用した対面授業やクラウドを活用した意見交換・発表の充実。
 - イ Teams 活用やコロナ禍の遠隔授業への対応等、BYOD、CYOD 導入に対応した学習指導の推進。
- ②観点別評価（3観点）の実施
 - ア 指導と評価の一体化を図る。
 - イ 第1学年における3観点評価実施。
- ③計画的な朝学習・朝読書、体験学習、学力向上研究校（校内寺子屋）事業の充実。
- ④「学びの基盤」プロジェクトによるプログラム検証。
 - ア 「読解力」と「自ら学ぶ力」を育成する指導法を開発・研究・検証。
 - イ 社会生活を送る上で、最低限必要となる読解力を高める教育プログラムの開発・研究。
 - ウ 生徒の多様性に着目した基礎学力を高める教育プログラムの研究・開発。
- ⑤個に応じた指導・支援の充実
 - ア 教育力向上を図るため、自立支援活動チームと通級学級コアグループとの連携及び活用の充実。
 - イ 中学校からの生徒情報共有シート等の活用と合理的配慮に基づいた指導の充実。
 - ウ 学力向上研究校（校内寺子屋事業）による主体的に学習する態度の育成。
 - エ ユニバーサルデザインの視点による教育環境の整備。

(2) 進路指導

- ①「進学応援型」の充実

- ア 第2学年進級時からの特進クラス設置。
- イ 特進クラス及び一般クラスの内容充実。
- ウ 高大接続改革に向けた対応。
- エ 放課後や長期休業期間中の補習・講習の充実。

(3) 生活指導

- ①中途退学防止（全員進級・全員卒業）の実現及び体罰根絶、いじめの未然防止の徹底。
- ②「Sport-Science Promotion Club」の指定（バドミントン部及びビームライフル部）を核とする部活動の活性化。
- ③「学校生活12のルール」の指導徹底

(4) 心身の健康づくり

- ①感染症防止対策に留意した健康観察等の継続。
- ②「TOKYO ACTIVE PLAN for students」に基づく体力向上を図る。
- ③スクールカウンセラー、ユースソーシャルワーカーとの連携充実及び生命尊重の充実。
- ④特別な支援を必要とする生徒への合理的配慮の充実。

(5) 新校舎はじめ新施設の活用とグラウンド整備工事への対応

- ①教育施設の十分な活用と工事中の防災対策及び校内安全対策の充実。
- ②新グラウンド造成により教育環境の整備を図る。
- ③校外の体育施設の積極的利用（例；体育祭における府中陸上競技場の利用）に関する必要措置。
- ④施設・設備の点検と維持管理の強化及び安全管理と事故防止への取り組み。

(6) 組織体制の強化と働き方改革

- ①PDCAサイクルに基づいた学校経営。
- ②経営企画室と一体化した学校経営を目指し、経営企画室のさらなる経営参画の促進。
- ③新型コロナウイルス感染症の対応と教職員の健康管理の徹底を図る。
- ④点検・環境整備・研修等を通して個人情報・情報セキュリティの適正管理を図る。
- ⑤生徒・保護者・その他都民に対する親切かつ丁寧な接遇の実施。
- ⑥教員との緊密な連携による効果的かつ正確な事務を遂行し、募集対策・入学者選抜の運営及び支援を行う。
- ⑦育児休暇取得経験者等を講師とする子育て研修会をはじめとして、働き方改革研修会を開催。

4 本年度数値目標

項目	内容	目標
1 学習指導	(1) 校内寺子屋出席率（基礎学力の定着） (2) 一人1台端末活用に向けた校内研修 (3) 観点別評価に関する研修会 (4) 長期休業中の補習・補講の実施 (5) 図書貸出冊数（図書館利用活性化） (6) 漢字検定・英語検定（3級以上）	90%以上 年3回以上 年3回以上 全学年で30講座以上実施 3000冊以上、不読率40%以下 3級以上合格者合計30名以上
2 進路指導・生活指導	(1) 進路実現に向けたガイダンスや講演会 (2) 進路決定率 (3) 基本的生活習慣の確立	年20回以上 90%以上 中途退学者・転学者数合計 各学年5名以内（全校合計 15名以内） 年間のべ遅刻者数 3500名以内
3 心と体の健康	(1) TOKYO ACTIVE PLAN for students (2) 「Sport-Science Promotion Club」 (3) 通級学級コアグループと自立支援活動チームの戦略会議	年間20回以上実施 関東大会・全国大会への出場 月1回
4 募集対策	(1) ホームページ更新 (2) 若鳩だより (3) 入選倍率	年間200回以上 年間5号以上発行 入選中進対倍率 1.4倍 入選推薦募集倍率 3.5倍 入選前期応募倍率 1.4倍
5 組織体制	(1) PDCAサイクルによる学校運営の見直し (2) 月当たり時間外勤務45時間を超える教員 (3) 年休5日以上取得 (4) 一般需用費センター執行割合	年3回 0（ゼロ）人 全教職員の取得を目指す 60%以上